

# Game Report

開催場所：鹿屋体育大学

試合区分：第 26 回全九州大学バスケットボールリーグ戦

試合期日：2019 年 10 月 20 日(日)

試合時間：14：00～

CC：和田 敏文

U1：鳥羽瀬 暁天

U2：水間 光亮

九州産業大学	○ 103	20	—1st—	30	● 96	東海大学九州
		15	—2nd—	17		
		28	—3rd—	17		
		24	—4th—	23		
		16	—O.T.—	9		

## 第1クォーター

開始早々、九産大#9米須が鋭いドライブで先制点を狙う。東海大はオフェンスリバウンドの奪取により#23中村と#7石橋が連続3Pシュートで得点を量産し、一気に流れに乗る。一方、九産大は#5Jeremiahに代わって入った#32Anthonyが起用に応える活躍をみせる。30-20とハイスコアで第1クォーターが終了。

## 第2クォーター

第2クォーター序盤、九産大#32Anthonyのインサイドプレーと東海大の機動力が激しくぶつかる。中盤、両者共に我慢の時間帯が続く中、東海大#7石橋が均衡を破る3Pシュートを決めると、#1立石も確実にシュートを沈めていき東海大が徐々に得点を引き離す。九産大は波に乗った東海大を止めることができず、47-35で前半を折り返す。

## 第3クォーター

九産大#52千々岩のブレイクが決まり九産大の反撃が始まるかと思われたが、前半の勢いそのまま東海大#1立石が確実にシュートを決め、点差を19点としたところで九産大がタイムアウトを請求。その後、九産大は#9米須を中心に激しいディフェンスと速い攻撃で点差を縮める。東海大は落ち着こうとするも、九産大#32Anthonyが攻守で力を発揮し怒涛の猛追に成功。64-63と東海大1点リードで最終クォーターへ。

## 第4クォーター

開始直後、東海大は足を生かしたオフェンスでブレイクを次々と成功させ、再び点差を10点にする。負けられない九産大は#32Anthonyや#37松田がドライブで相手のファウルを誘うも、東海大#7石橋が要所で3Pシュートを決めるため中々追いつくことができない。逃げ切りにかかった東海大であったが、九産大#37松田が意地のシュートを決め残り21.7秒で2点差とする。残り2.9秒、ファウルをもらった九産大は#0仲上がフリースローをしっかりと沈め87-87の同点とし、オーバータイムへと突入する。

## O.T.

序盤、東海大は#13久保が、九産大は#13上良が得点を奪い両者一步も譲らない緊迫した状況で試合が進む。中盤、東海大が#7石橋のバスケットカウントで逆転するも、すかさず九産大が#13上良の3Pシュートで逆転。更に#32Anthonyのブロックからブレイクで#2口石がレイアップを決めリードを5点に広げる。終盤に差し掛かっても九産大の集中力は切れず、103-96でタイムアップ。オーバータイムにもつれ込んだ大接戦は九産大に軍配があがった。